

令和5年度自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年度6月

学校法人八幡学園やはた幼稚園

1. 本園の教育目標

〈理念〉

・健康な身体とまろやかな心をつくる

〈教育目標〉

・健康な子 ・ やさしい子 ・ 何でも言える子 ・ 考える子

・約束を守る子 ・ 他人に迷惑をかけない子

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

(1) 自由遊びに(遊び)に具体的なねらいをもつ

(2) 子どもに寄り添った保育

(3) 環境設定から防げるけがを減らす意識

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
(1) 自由遊び(遊び)に具体的なねらいをもつ	A	子どもの学びにつながる遊びの時間を十分に確保することは、昨年度からの目標でもある。引き続き十分な時間の確保と子ども達の今の姿を捉えた、遊びの環境設定を意識した保育を行ってきた。子どもの自発的な遊びを尊重しながらも、遊びを仕掛けたり、きっかけを作ることで、個々や集団の遊びの広がりや、子どもたち同士の間わりの変化、昨日からの継続と発展など、様々な変化も見られた。一日の活動や行事に捕らわれず、じっくり遊び込めることで、子ども達自身の遊び方への変化もあり、より具体的なねらいを活かしていくことができた。
(2) 子どもに寄り添った保育	A	先生たちはみんな子どもに寄り添った保育をしたいという思いを持ち子どもと関わり保育している。常に先生と一緒にいたい子ども、や特に配慮を必要とする子どもなど、各クラスに様々な子ども達がいる中で、個々に合った対応と共に、子どもの気持ちに寄り添うことを大事にしたいという願いを持って保育してきた。子どもの要求に応えることではなく、その時その時に必要な援助や、時には子どもの目線に立ってみたり、一緒に考えたり…様々である。担任だけでなく、フリー、他のクラス、他の学年と教員、パートの方までも幼稚園全体で個々の子どものことを共有することで、全職員、全園児が一体となって関わっているということが感じられた。

(3) 環境設定から防げるけがを減らす意識	A	毎日の環境設定は子ども達の“今の姿”からクラス、園庭、ホールそれぞれの場所に必要なものを予測し、設定し振り返り、また再構成するなど環境設定をしてきた。普段と変わらない状況が当たり前なのではなく、変化を楽しんだり、職員一人一人がいろいろなところに目を凝らしていくようにした。また、けががあった時にはその状況を記録し二度と繰り返さないよう、また週末にかけて怪我が多くなる傾向があったため状況を職員間で共有をし、より一層注意深く環境を整えることを意識した。
-----------------------	---	---

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	先生たちみんなが、子どもにとってより良い生活、保育を目指して取り組んできた。日々過ぎ去っていく中で、その日その日の振り返りや計画、個々を見直す時間を確保できたことで、次の保育に繋がった。子どもにとっての生活の場である幼稚園、各クラスが豊かになるよう、担任だけでなく補助、事務職員も一緒に考えていけた。今後も連携を怠らず、子ども達や保護者にとっても豊かな生活の場となるように努力していきたい。また、一方で効率よく保育後の作業を進めていく事、職員自身の退勤時間に関しては来年に向けての課題でもある。子どもの為に一生懸命になるあまり、時間を忘れて作業し、遅くなってしまうことがある。子どもと共に進められることは、保育中に子どもと一緒に進める。それは子ども達にとっても良いことである。保育後にしかできないことなどを吟味し効率よく進めていく事がより良い保育につながると感じているので、次年度は少しずつ意識して実践していきたい。

5. 学校関係者評価委員会の評価結果

子ども達がいつもよく遊び、思い切り身体を動かし、友達や動植物、アートに触れ合える環境がきちんと整えられ工夫されている。子どもと保育者との関りにも温かきやり取りが感じられた。自分のことは自分でおこない、きちんと挨拶できる姿や伸び伸びとした姿、楽しそうな姿に保育者の工夫が感じられる。

また、日々の生活の中でも、自分のことだけでなく、相手のことを感じ考えながら行動できる姿に子どもの育ちを感じている。保育者が子ども達の意志を尊重し、園全体で見守り、何でも言える環境にある。